

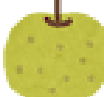
こんにちは。岩木山にも雪が降り、寒い季節となりました。

全国的に、インフルエンザの流行が例年より早く、10月4週目より弘前市内でもインフルエンザAが出始めています。インフルエンザワクチンの接種は10月初めより開始しています。ワクチンを接種しても感染する場合がありますが、重症化を予防してくれますので接種をお勧めします。

その他、マイコプラズマや溶連菌が流行していますのでお気をつけ下さい。

11

2025
NOVEMBER

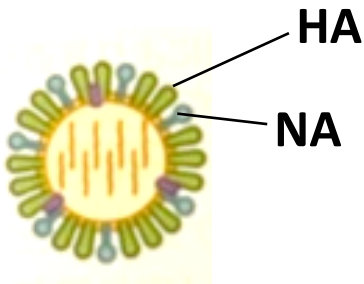


MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
					1	2
3 祝	4	5	6 午後は 14:30~	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24 祝	25	26	27	28 16時まで	29 9時から	30

インフルエンザの流行について考える

今年も、インフルエンザが流行する時期になりました。個人的には、研修医1年目のむつ病院の休日外来で、30〜40人くらいの沢山のインフルエンザ患者さんを診察した後に発症して以来、20年近く感染していません。周りの小児科の先生達もあまり感染しないので、抗原に暴露されすぎて抗体が高いのかな（ブースター効果）と勝手に思っています。感染すると発症後5日間も行動制限がかかり、自分が感染すると休診となりご迷惑がかかるので、油断せずに院内の感染対策は今年も厳重に行います。

インフルエンザは、主にA型とB型があります。今東京の方で流行しているのは、A型2種類 (H3N2とH1N1)とB型 (Victoria)のようです。インフルエンザウイルスの表面にはHA（赤血球凝集素）とNA（ノイラミニダーゼ）という抗原があり、B型はそれぞれ1種類ずつですが、A型はHAもNAも10種類以上あるため、その組み合わせにより型が沢山あります。



私たち人間の遺伝子はDNAという二重らせん構造で非常に安定していますが、インフルエンザウイルスやコロナウイルスはRNAという一本鎖で不安定な遺伝子で、変異がおこりやすくなっています。新型コロナウイルスも変異を繰り返していますが、インフルエンザも毎年小さい変異を繰り返して型を変えています。たまに大きい変異があり、2009年には新型インフルエンザとして世界的な大流行が起きました。その際は従来の抗インフルエンザ薬が有効で、その後、H1N1型として季節性のインフルエンザと同等の扱いとなりました。インフルエンザも20〜30年くらいの間隔で大きい変異を起こしているので、忘れたところに新型インフルエンザがまた流行するかもしれません。

今年は9月のまだ暑い時にインフルエンザが流行していた学校もありましたし、冬だけの感染症ではなくなっていくかもしれません。今後もウイルスとの戦いは続くので、基本的な感染対策であるうがい、手洗い、マスク、予防接種等で感染や重症化を防ぎましょう。